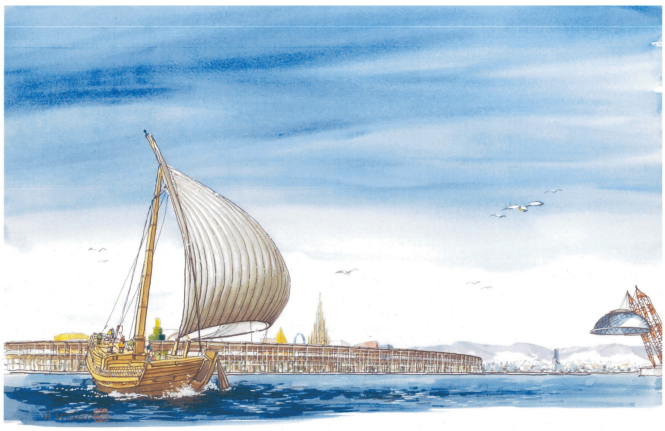
大阪府木材連合会

大阪・関西万博に木材の活用を

大阪府内の木材卸売業者が中心となって構成する大阪府木材連合会（府木連）と、府内の森林事業連携自治体（河内長野市、河南町、千早赤阪村）との意見交換会が、大阪市住之江区の大阪木材会館で開かれた。津田潮会長、島田智明市長、森田昌吾町長、菊井佳宏・産業建設部長が出席。木材の活用をテーマに、2025年大阪・関西万博に向けた府木連の活動や、３市町村の取り組みを報告した。島田市長、森田町長、菊井部長は、木材の防腐処理などを手掛ける越井木材工業大阪本社第２工場（同区）も視察した。



菱垣廻船（宮後浩・画）

パビリオンに丸太を提案

大阪府木材連合会会長／津田産業社長　**津田 潮氏**

府木連では、2025年大阪・関西万博に木材を使ってもらおうと働きかけをしています。会場のシンボルとなる大屋根（リング）には丸太を使うことを提案しました。

リングの直径は700㍍、円周が2200㍍、幅が30㍍、高さが12㍍です。われわれの案は、直径1㍍の丸太を2200本立てて、リングを支えようというものでした。リングを全て木で造ると、6861㌧の炭素を固定し、2万5157㌧の二酸化炭素を吸収するとの計算になります。丸太を立てると、リングの下は森の中にいるようなイメージになります。オールジャパンで取り組み、全国から丸太を集めようと活動してきました。

その結果、リングは木造に決まりました。ただ、集成材を使うことになりました。大断面の集成材となると、残念ながら、外材になりますが、木造になったということで、半歩、前進したと思っています。

万博の会場では、令和5（2023）年4月からパビリオンなどの建設が始まります。関西広域連合が出展する関西パビリオンは、灯籠をイメージして、白い膜で覆われたテントのような形になります。この関西パビリオンの前に関西全域から集めた丸太を立てて、パビリオンを引き立てようと提案しています。

万博に合わせて、木造の菱垣廻船を帆走させようというプランも進めています。江戸時代には、菱垣廻船で大坂（大阪）から江戸（東京）まで酒や米などを運ぶ船があります。大阪市が平成11（1999）年に復元した菱垣廻船を再び大阪湾に浮かべて、万博に来る方を迎えに行こうと考えています。

この大阪木材会館は、樹齢100年超、直径1㍍の丸太が大黒柱として建物を支えています。万博では、このような丸太を各国のパビリオンにも使っていただけたらと思います。

大阪木材会館の壁には、NLTという集成材が使われています。NLTとは、くぎのみで木材を接合したもので、CLTという集成材と同等の強度があります。曲線を表現することができ、CLTと比べて製造コストを抑えられます。

公共建築物等木材利用促進法が改正され、法の対象が建築物一般に拡大されました。府木連としては、NLTを活用して、非住宅分野や中高層建築物の木造化を提案していきたいと考えています。

菱垣廻船の帆走プランも

府内3市町村と意見交換会

おおさか河内材の使用を促進

河内長野市長　**島田 智明氏**

河内長野市では、「おおさか河内材」を使用した住宅や店舗の新築や増改築の費用を補助する制度を導入しています。スターバックスコーヒージャパンが市内に出店するときに補助金制度を活用し、おおさか河内材を使用した店舗を作りました。

公共施設にも、おおさか河内材を増やしています。市役所では、窓口などの木質化を実施しました。最近では、市立図書館にベンチやスツールなどを整備しました。実際に使っていただくことによって親しみを感じていただき、おおさか河内材が認識されれば、どんどん広がりを見せていくと思っています。

木材利用の普及啓発活動として、森林ESD（森林・里山を活用した持続可能な開発のための教育）を取り入れ、森林環境教育にも力を入れています。市内の公立小学校5年生に森へ行ってもらい、間伐、森の観察、競り市や製材所の見学など、さまざまな体験をしてもらっています。われわれの森林が、温室効果ガスの一つである二酸化炭素を吸収し、環境に貢献していることを理解してもらうには、森林ESDが重要な役割を果たすのではないかと思います。

万博に向けては、市在住の音楽家、サキタハヂメさんが、世界の森を音でつなぐ「地球オルガンプロジェクト」を進めています。「山を鳴らす」アイデアの一つとして、市の森で木に独自のオルガン機構を取り付け、パイプオルガンのように音を鳴らすという実験を行いました。万博で世界の森がハーモニーを奏でるオンライン演奏会の実現を目指しているそうです。市では、楠木正成のNHK大河ドラマ誘致にも取り組んでいます。どちらも実現すれば、森や山が注目され、その素晴らしさを伝えられると思っています。

子供が生まれたときには、出生記念品として木製の玩具（積み木）を贈っていますが、生活環境が変わり、木を植える場所がないという家庭もありますので、記念樹か積み木を選べるようにしました。このような形で今後も木材をPRしていきたいと思います。

町には、古墳をテーマにした大阪府立近つ飛鳥博物館があります。南北朝時代に楠木正成が活躍した地でもあります。そのような歴史があり、まだまだ自然が残っています。

われわれの資源でもある木材を万博で使っていただけば、今まで眠りがちとつながってきた南河内の自然を世界にアピールする格好の機会になります。町としては府木連と連携して、全力を挙げて対応していきたいと思っています。

おおさか河内材のPR活動も

千早赤阪村産業建設部長　**菊井 佳宏氏**

地方公共団体が率先して木材の利用を進めるのは、地球温暖化防止に向けた対応として当然のことです。河南町でも以前から公共施設の木質化に取り組んでいます。直近では、3年前に開園した町立中村こども園の室内を木質化しました。遊戯室は床全面に大阪産木材を使っています。ウッドデッキを設置したり、園庭を芝生化したりすることによって、自然とのふれあいを体感できるようにしています。

河南町では、子育てと教育のまちを掲げて、第2子以降の保育料の無償化、学校給食費の無償化、18歳までの「子ども医療費」の助成、22歳までの医療費の助成など、子育て支援を充実させています。子育てにおいて、木の温かみ、ぬくもり、匂いを肌で感じることは情操教育にもつながります。町のおやこ園（子育てセンター）では、何人もの子供が入って遊ぶことができる木製の遊具（汽車）を取り入れています。

公共施設の木質化に取り組む

河南町長　**森田 昌吾氏**

千早赤阪村は、村域の8割が森林であり、うち9割は人工林となっております。村役場では、新しい庁舎の建設工事が進んでいます。全体の6割に当たる1期部分が完成し、仮オープンしました。1階の天井部には村産のヒノキ材を使用し、自然で温かみのある雰囲気を作り出しています。

出産祝いとして、おおさか河内材を使用した玩具（積み木）のプレゼントも実施しています。小さな頃から木に触れることで、木のぬくもりを感じてもらうことができ、木材利用の普及啓発活動にもつながると考えています。

おおさか河内材のPRとしては、近畿中国森林管理局（大阪市北区）の「森林（もり）のギャラリー」で森林と木材利用をテーマに展示を行いました。おおさか河内材を活用した製品、おおさか河内材が産出される金剛山（標高1125㍍）など地域の魅力、楠木正成ゆかりの楠公誕生地や千早城跡などの観光スポットを紹介しました。

万博の関西パビリオンで各市町村の木が使われれば、何よりのPRになります。村としても全面的に協力してまいりたいと思っています。

ワイズメンズクラブ国際協会西日本区

大阪・長堀通で植樹

ワイズメンズクラブ国際協会西日本区・中西部が、１月28日に大阪市の長堀通で同クラブ設立100周年記念植樹を行った＝写真。地域奉仕環境事業の一環として、暑い夏にピンクの花を咲かせるサルスベリが植えられた。

ワイズメンズクラブ国際協会は、1922年に米国で設立され、世界各国でさまざまな奉仕活動を展開している。日本では、東日本区と西日本区が、それぞれに活動。西日本区には現在、約1400人が在籍している。

西日本区・中西部では、府木連の活動「うなぎの森づくり」にも参加している。大阪府高槻市の山で森を整備し、淀川のウナギを増やそうという取り組みで、今年は５月14日に植樹祭を開催する予定。

越井木材工業

環境に優しい木製浮き基礎工法

万博開催予定地で実大実証実験

越井木材工業は、木製浮き基礎工法を日本で初めて導入。大阪・関西万博の開催予定地で実大実証実験を行った。

同工法は、ＲＣ造などのコンクリート基礎工法とは異なり、建築基礎に木材を利用するもの。木材はコンクリートよりも重量が軽いため、地盤が弱い地域で施工が有利になり、地震による液状化で不等沈下したときは調整が可能。ＲＣ基礎と比較して、二酸化炭素の排出量を削減。炭素の固定も可能で、環境負荷の低減が大きな特長という。

実大実証実験では、木製浮き基礎とコンクリート基礎のそれぞれで約100平方㍍の建物を建築。令和３（2021）年２月から10月まで経過観察を行い、沈下の程度や不等沈下の有無などを比較した。

同年10月に資材をもう一度利用できるようにする「生きバラシ」で解体を行い、同じ場所に同じ建物を再建築し、再施工性も確認。４（2022）年３月から現場作業員の詰め所として利用し、引き続き、経過観察を実施している。

実大実証実験棟の丸太基礎